

ネット裏



越智正典

一番近いチームなのが誇りで、創立30年を迎えて記念誌を自費出版（非売品）。それがこの本で2014年2月初版。制作東

日印刷編集室。私のような者にお贈り下さったのは、松山商業、明治大学、毎日オリオンズの大塚二塁手、マネージャ

1、野村輝夫氏にご指導頂いて来たのをご存知だったのだ。びっくりし、恐縮した。

凄いな。表紙もカバーも全部写真で青バットの天下弘。昭和23年巨人南海開幕第1戦、満塁逆転サヨナラホームランの川上哲治。平山菊二、青田昇。球界の紳士別当薫

都市対抗別府星野組の火の玉投手荒巻淳。昭和24年秋、対SFシールズ第3戦、アメリカに負けるもんかとウイスキーをひっかけた登板した武末悉昌。大リーグ首位打者8回、打点王5回、ホーナ

ス・ワグナー。ジョー・ディマジオ。テッド・ウイ

「トロント・ブルージェイズ 1977年カナダに誕生した2番目の大リーグチーム。ブルージェイズ（アオカケス）は北米

の届くころによく終わりました。野球の幅広さ、奥深さに改めて感じ入りました」。お人柄が思われる。

「タンパベイ・レイズ ナショナル・リーグのダイヤモンドバックスと一緒に1998年、創設された一番若いチーム。当初はデビルレイズと名乗ったが2008年からレイズに変更した。球団創立時、ニックネームを募ったところ7000通りの応募があった。南部フロリダ州にふさわしく、

多くの案が『RAY、光線、輝き』という語を含んでいたことが命名のヒントに：」

「シンシナティ・レッズ 最初にプロフェッショナルを名乗った：とされるのがシンシナティ・レッドストッキングスで、1869年のことだっ

た。赤いストッキングがチームの特徴だった。70年に130勝という圧倒的な強さを発揮したが、選手報酬の高騰から財政難に陥り主力選手の大半がボストンのチームに移籍。レッドストッキングスという由緒ある愛称も一緒に持っていった：しまい：シンシナティチームはこの年で姿を消した：。78年からレッズと改称した。1975、6年に強力打線を看板にワールドシリーズ連覇を果たしたころは畏敬の念をこめてビッグレッドマシーンと呼ばれた」

3選手のカンパインは近い。 敬称略（スポーツジャーナリスト）

ブルージェイズ、レイズ、レッズ

日本人3人が移籍した球団の愛称の由来

制作・西川勝博、寺村一彦

山口俊がトロント「ブルーージェイズ」に行く。筒香嘉智がタンパベイ「レイズ」へ。秋山翔吾はシンシナティ「レッズ」。チームの愛称は野球が始まる春は呼ぶだけでたのしい。が、私は由来を知らない。そうだが。堤哲氏から頂いた「野球博覧」に出ていると思

い出した。堤氏によると毎日新聞社の論説委員、編集委員がつくった草野球チーム「大東京竹橋野球団Sライターズ」は、日本野球

発祥の地（学士会館）に

2月6日（木曜日）

東スポ

令和2年（2020年）